

科目名：小児看護学演習		必	1 単位 (45 時間)
(Pediatric Nursing Practice) 履修年次/時期：2 年次 後期 授業形態： 講義・演習 主担当教員： 眞田英子（実務経験 臨床経験 15 年、うち小児看護領域経験 7 年：実務経験から臨床判断能力の基盤となる力が身につくように授業を行っていく） 担当教員：小原聖子			
学修目的	子どもと家族の看護に必要な援助方法について演習を通して学修する。 CP3 に関連する。 科目 No. KNe-219		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	◎
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	○
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP		
到達目標	1. 子どものバイタルサイン測定とフィジカルアセスメントができる。 2. 子どもへの与薬方法と検体採取の基本的技術が習得できる。 3. 子どもの一次救命処置と気道異物除去について理解し、基本的な技術を修得する。 4. 事例患者の病態を理解したうえで必要な援助計画が立案でき、その時の状況に応じた援助が実施できる。 5. これまでの基礎的な学びを総括し、3 年次の小児看護学実習に向け、自己の強化すべきことが述べられる。		
授業概要	子どもが安全に療養生活を送るために必要な技術を演習を通して学修する。また、紙上事例を用いたワークやシミュレーション演習を通し、臨床判断力を養う。		
評価方法	演習課題（演習準備課題含む）80% 授業への参加度 20% 課題に対するフィードバックは講義及び掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】 0.5h 【復習】 0.5h		
教科書	系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 新訂版 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ		
参考書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	眞田英子（3 号館 3 階研究室） sanada@kdu.ac.jp 毎週金曜日 16：00～17：00		

連絡先	小原聖子（3号館3階研究室）毎週金曜日 16：00～17：00 ※この時間以外でも対応しますが、実習等で不在のことがあるので、不在時はメールをお願いします。
-----	---

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (/)	科目ガイダンス 小児看護における看護過程で活用する概念 ① 活用する理論 ② 活用する概念 ③ 成長・発達の評価指標	[予習]小児看護学①小児臨床看護総論第 4 章と、写真でわかる小児看護技術アドバンス CHAPTER1、2 を通読 [復習]講義内容 [キーワード]成長・発達、フィジカルアセスメント、臨床判断、家族看護	講義 ○眞田
2 (/)	子どもに特徴的な症状と看護 ①疼痛時の子どもと家族への看護 ②発熱時の子どもと家族への看護 ③脱水時の子どもと家族への看護 ④痙攣時の子どもと家族への看護 ⑤呼吸困難時の子どもと家族への看護	[予習]小児看護学①小児臨床看護総論 第 5 章と、写真でわかる小児看護技術アドバンス CHAPTER1,2,3,4,8,11,12,13,14,15 を通読 [復習]講義内容 [キーワード]行動観察評価、生理学的評価、熱型、セツトポイント、発熱、うつ熱、感染性-非感染性、呼吸原性心停止、酸素療法、ハイフローネーザルカニニューレ、酸素ボックス酸塩基バランス、下痢、嘔吐、脱水の重症度、脱水の分類、ツルゴール、不感蒸泄、酸塩基平衡、電解質、嘔吐の原因、感染性-非感染性、下痢の原因、ノロウイルス・ロタウイルス下痢症、カンピロバクター下痢症間代性痙攣、強直性痙攣、てんかん、副雑音	講義 ○眞田
3 (/)	検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ①プレパレーションの意義 ②小児各期にある子どもへのプレパレーションの実際 ③子どもの採血方法と看護 ④子どもの採尿方法と看護 ⑤子どもに行われる骨髄穿刺・腰椎穿刺の方法と看護 ⑥子どもへの与薬の特徴と方法 ⑦子どもの点滴静脈内注射の管理と観察	[予習]小児看護学①小児臨床看護総論 第 6 章と、写真でわかる小児看護技術アドバンス CHAPTER3,9,10,11,14 を通読 [復習]講義内容 [キーワード]ディストラクション、プレパレーション、滴下法による採血、毛細血管血採血、採血時の支え方、採尿バッグ、鎮静薬使用時の管理、骨髄穿刺部位と穿刺時の支え方、脛骨上部、前・後腸骨稜、腰椎穿刺部位と穿刺時の支え方、薬物動態、薬用量、経口与薬、座薬、注射、吸入、輸液管理、小児用輸液セット、輸液ポンプ、シーネ固定	講義 ○眞田
4 (/) 5 (/)	小児看護技術演習 (1) (2) ①バイタルサイン測定 ②おむつ交換、採尿 ③ベッド柵の操作 ④点滴静脈内注射の固定	[予習]援助計画立案 [復習]講義資料、小児看護学①②、写真でわかる小児看護技術アドバンスの該当範囲 [キーワード]発達段階別測定値の目安、採尿バッグ、おむつ交換、手背の静脈、シーネ固	演習 ○眞田 小原

		定、末梢の循環障害、輸液管理	
6 (/)	救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 ①子どもの虐待防止 ②子どもの事故防止 ③子どもの事故の特徴 ④主な誤飲物質と処置 ⑤子どもの熱傷の特徴 ⑥子どもの一次救命処置	[予習] 小児看護学①小児臨床看護総論 第6章 C-⑩、第8章、小児看護学②小児臨床看護各論 第19章、写真でわかる小児看護技術アドバンス CHAPTER16 を通読 [復習] 講義内容 [キーワード] 虐待の種類、児童福祉法、児童虐待防止法、児童相談所、乳児家庭全戸訪問事業、要保護児童対策地域協議会、親権停止制度、児童相談所虐待対応ダイヤル不慮の事故、誤嚥・誤飲、溺水・溺死、熱傷、誤飲による急性中毒、誤嚥時の気道異物除去法、ブロッカーの法則、ランドーブラウダーの公式 災害、2本指法胸骨圧迫、両母指圧迫法、心肺蘇生法	講義 ○眞田
7 (/)	救急救命処置が必要な子どもへの援助の実際 ①小児一次救命処置 (PBLS) ②異物除去・気道確保	[予習] 小児看護学①小児臨床看護総論 第6章 C-⑩、第8章、小児看護学②小児臨床看護各論 第19章、写真でわかる小児看護技術アドバンス CHAPTER16 を通読 [復習] 講義内容 [キーワード] 背部叩打法、胸部・腹部突き上げ法、心肺蘇生法、2本指法胸骨圧迫、両母指圧迫法	演習 ○眞田 小原
8 (/) 9 (/)	事例演習 (1) (2) ①フェイスシートとアセスメントシートを確認、追加・修正 ②疾患、症状、治療から看護問題を抽出 ③発達段階、日常生活から看護問題を抽出 ④家族関係、家族システム、家族の発達段階から看護問題を抽出	[予習] フェイスシートとアセスメントシートの確認 [復習] フェイスシートとアセスメントシートの追加・修正 [キーワード] 現病歴、病態機序、治療、成長・発達の段階、家族、分析・解釈	演習 ○眞田 小原
10 (/) 11 (/)	事例演習 (3) (4) ①個人の全体関連図と看護問題リスト作成 ①グループの看護問題リスト抽出 ②個人、グループの看護目標設定、看護計画立案、評価日設定	[予習] 提示されている事例の全体関連図と看護問題リストの確認 [復習] 全体関連図と看護問題リストの追加・修正 [キーワード] 看護問題、優先順位	演習 ○眞田 小原
12 (/) 13 (/)	事例演習 (5) (6) ①発表会に向けて各グループの看護計画立案 ②シミュレーション演習準備	[予習] 看護計画立案 [復習] 看護過程の展開の見直し [キーワード] 情報整理、情報の分析・解釈、全体像の整理、看護問題抽出、優先順位、看護目標設定、看護計画立案	演習 ○眞田 小原

14 (/)	シミュレーション演習 (3) (4)	[復習] 観察-援助シートの修正	演習
15 (/)	①グループに分かれて、状況に応じて必要な援助を 考えて実施 ②ディスカッションにより、さらに良い看護につい て検討 ③演習での学びと今後自分が強化すべきことの確 認	[キーワード] ロールプレイ、臨床推論・判断、 ディスカッション、リフレクション、自己の 課題	○真田 小原